東16、3

史林

一九五五年一二月二五日 印刷
一九五六年一月一日 発行

第39巻 第1号　　史学・地理学・考古学

神統譜の展開……上田正昭（1）
——氏族系譜と神々の位置——

承久の乱の歴史的評価……上横手雅敬（24）

水力エネルギーに関する歴史地理……末尾至行（45）
——ヨーロッパを中心とする水車利用の展開について——

金城公主の入蔵について（上）……佐藤長（68）

書評

G. Freiherr v. Pölnitz: Fugger und Hanse……瀬原義生（83）

史学研究会

京都大学文学部内

京都大學文學部東洋史研究室
東洋史研究會
振替口座京都三七二八番

㉕ 井上光貞「国造制の成立」（史学雑誌六十の十一）
㉖ 難波喜造「出雲神話の巨人たち」（文学二三の七）
㉗ 本居宣長「古事記伝」（巻五）
㉘ 和歌森太郎「日本古代社会」（第二章第二節）
㉙ 三品彰英「布都之御魂考」（青丘学叢十）
㉚ 延喜式（神名帳）宮中・大和国・伊勢国等に所祭社あり、フツ神社には阿波・伊勢国等に神社名見ゆ。
㉛ 小林行雄「前掲論文」（上）（史林三十三の三）
㉜ 拙稿「アガタ及びアガタヌシの研究」（国学院雑誌五十四の三）
㉝ 続日本紀（天平十八年三月の条）
㉞ 神宮雑例集（巻一、中臣氏祖神の条）但し、この記事には「都在二奈良京一之時」とあつて、和銅三年より前年に奈良京の事を記しているが、造営中の意味か、あるいは誤記か留保すべきものがある。
㉟ 続日本紀（宝亀八年七月の条）
㊱ 本居宣長「古事記伝」（巻十五）
㊲ 林屋辰三郎「継体・欽明朝の内乱」（立命館文学八八）
㊳ 続日本紀（神護景雲三年六月の条）
㊴ 出雲国風土記（意宇郡・秋鹿郡）にも布都怒志・和加布都怒志と見え、あるいは物部経津等とあつて、フツヌシが見えぬわけではないが、神賀詞では主神でない事を注意したい。
㊵ 山本清「遺跡の示す古代出雲の様相」（出雲国風土記の研究）

新入会員

五百木遠治
今井美智子
今泉　朔郎
大井　謙一
岡崎　正孝
加藤　英次
加納和三郎
河内　良弘
菊谷　進
北山　茂夫
楠山　修作
熊本県立阿蘇高校　熊本県阿蘇郡一宮町
小山田義雄
酒井　一
清水　誠
豊田　元彦
中田　易直
西岡　伸二
西野　元
橋本　幸雄
服部　清子
林　幹弥
平中　苓次
堀田　修治
増淵　龍夫
三谷　敏雄
山内　正博

⑭ ツェンポの祖母を「可敦」と呼んだのは、或は古代トルコ語がチベット語に転用されたのではないかとの疑を起させる。しかし敦煌年代記には全部この祖母を pyi と呼んで ka tun, kha tun, gu tun の語は用いていない。結局シナ史家が当時の塞外通用のトルコ語よりして漫然と用いたものに他なるまい。勿論前述のようにこの祖母はチベットの名族の出身でトルコ系を交えている証拠は何ものもないのである。

⑮ 冊府元亀巻九六六外臣部継襲には、

神龍元年器弩悉弄卒、諸子争立、久之国人立其子棄隷蹜賛為賛普、時年七歳。

とある。神龍元年（七〇五）はツェンポの歿した翌年であり、故に或はこの訃報の唐廷に到着した年次にかけたのかも知れず、新ツェンポの年齢を七歳としたのと共に一応誤ってはいるが、尚その文は原史料に近い形を存しているものと思う。

⑯ 通鑑の同年同月の条の註には通鑑考異の引いた文館記の文を載せているが、

文館記云、吐蕃使其大首領瑟瑟告身賛咄、金告身尚欽藏以下、来迎金城公主。

と言う。尚欽藏 ʑiang kʻiom dzʻang は年代記龍の年（七〇四）の条に（DTH. p. 19）、

シャンチブサンタグツァブ Shan khri bzaṅ stag tsal はジャルリンツェル Byar lins tsal に会議を開きたり。

とあるシャンチブサンであろう。

⑰ rin khan を DTH は「待ち合せの館」chambre de d'attente とするが、今直訳に従っておく。

⑱ Laufer, B., Bird Devination among the Tibetans, T. P. 1914, p. 92.

⑲ Pelliot, P., Quelques transcriptions chinoise de noms tibétains, T. P. 1915, p. 22.

⑳ Das, S. Ch., Tibetan-English Dictionary, p. 844.

㉑ 拙稿「唐蕃会盟碑の研究」東洋史研究第十巻四号三二頁。

㉒ 新唐書巻八一、三宗諸子列伝の章懐太子の条にもほぼ同様の文が見える。

㉓ 「賜金城公主書」全唐文巻四〇、「謝恩賜錦帛器物表」「乞許賛普請和表」「請置府表」同書巻一〇〇。

史学研究会例会

二月四日（土）午後一時・京大楽友会館

劉備の入蜀　狩野直禎

ナチスと自由主義の問題　広実源太郎

万葉に於ける古代と近代　林屋辰三郎

デンマーク、スウェーデン、ノルウェー三国の政情は混乱をきわめ、フッガーはただ手をこまねいて成行を見守るばかりであつた。しかもいくたの紛糾をへて登位したデンマーク王クリスティアン三世は反フッガー的態度をくずさず、しかも新教諸侯の有力な同盟であつたから、一五三九年二〇〇〇〇グルデンの融資を代償としてえられた一時的協調も到底永続的な関係となる可能性はなかつたのである。（第三章）

こうした北欧の政治的不安定、国内における宗教的対立の深刻化、さらに致命的なことに、トルコによるハンガリア銅山の危機などが重なつてフッガーの北欧商業はますます困難となつた。他方においてハプスブルク家との宿命的なつながりは強まり、スペイン政府に対する貸付金は増加の一途をたどり、ここに至つて、フッガーはハンガリア銅を死守するか、スペイン政府に寄生するか、二者択一の岐路に立たされた。さらにイギリス国王との関係は親密に進行し、アントンはヘンリー八世に融資すると同時に、西南ドイツの特産であるバルヘント織物をロンドンにおいて大規模に販売することを計画しはじめた。イギリス経済への浸透、その可能性がフッガーをして一五四五年ついに西欧へ重点を移すべく決意せしめたのである。四八年フッガーはハンガリア銅を完全に放棄し、従つてハンザ商人とのあつれきも漸次消滅してゆくのであるが、しかしイギリス、スペインでいかなる運命が待ちうけていたか、ここで語るまでもなかろう。（第四、五章）

＊　＊

概要は以上の如くであるが、ペールニッツの立場はこれまでの単純な経済史的観点にとどまらず、経済を政治と個性との複雑なからみあいのなかにとらえているところに特徴があるように思われる。とくにフッガー企業の中軸にハンガリア銅をすえ、国家権力、教会との金融資本的結合をその補助的機能として明瞭に詳細に描出しているのは、より厳密な検討を要する問題点といえよう。しかしペールニッツは――史料は別として――この交渉史をすべてフッガーの側からみており、ハンザ史家からみればまた別の意見も出るかもしれない。巻末に一括されたくわしい註釈、史料もまたペールニッツらしい好みである。

――瀬原義生――

執筆者紹介

上田正昭　鴨沂高校教諭
上横手雅敬　京都大学大学院特別研究生
末尾至行　京都大学助手
佐藤長　京都大学助教授
瀬原義生　京都大学大学院特別研究生

史学研究会々則（昭和二九・一一・一改正）

第一条　本会は史学研究会と称する。
第二条　本会の事務所を京都大学文学部陳列館内に置く。
第三条　本会は京都大学文学部史学科を中心として同好の士相集り史学に関する研究をなすことを目的とする。
第四条　本会の事業は概ね左の通りである。
一　会合
二　研究調査及び見学
三　会誌（史林）等の発行
第五条　本会に理事長壱名、理事五名、監事弐名、評議員弐拾五名、及び委員若干名を置く。
第六条　理事長、理事及び監事は評議員の選出による。理事長は本会を代表し、会務を統轄し、会員総会、理事会及び評議員会を召集する。理事は理事会を構成し会務を処理する。監事は会計経理を監査する。
第七条　評議員は会員総会においてこれを選出し、会務の諮問に応ずる。
第八条　委員は理事長これを嘱託し、編輯、庶務、会計の実務を分掌する。
第九条　役員の任期は二年とする。但し再任する事が出来る。
第十条　本会の目的を賛し新に会員になろうとする者は、入会申込をなし理事会の承認を受けることを要する。
第十一条　会員は所定の会費を納入して、本会の会合に出席し研究、調査、見学その他の事業に参加し、会誌「史林」の配布を受け且つこれに投稿することが出来る。
第十二条　毎月一回例会を開く。会場等はその度にこれを定める。
第十三条　毎年秋期に於て総会を開き研究、調査、見学を行い及び会務の報告をする。
第十四条　本会の経費は会費、事業収入及び寄附金を以て支弁する。会費は誌代を以て会費とする。
第十五条　本会のため功績顕著な者は評議員会の議決により名誉会員に推薦することが出来る。
附則　本会則の変更は、会員総会の決議によるものとする。但し会務執行に必要な細則及び物価変動に基く会費金額の変更は理事会がこれを行う。

編集後記

第三九巻第一号もまた順調にお届けできることになつた。巻頭上田氏の論文は日本神話の斬新な分析として、とくに西洋史関係のものにとつても興味あるもの、上横手氏のそれは氏のこれまでの業績に一層の深化をみせ、末尾氏のそれとともにとくに若き研究者の業績として読者の御閲覧を乞いたい。

佐藤氏の小論は氏多年の蘊蓄の一端であり、瀬原氏の書評とともに本誌の内容を豊かにしているものと思う。ダイナミックな史潮に棹さしながら、固形化する思想をつき破り、史林はあくまでも生い茂る史林であることを本誌もまた立証することができたとすれば幸いである。

（越智）

一九五五年一二月二五日印刷
一九五六年一月一日発行
定価　百円
史　林（第三九巻　第一号）
京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内
発行所　史学研究会
理事長　原随園
編輯主任　赤松俊秀
振替京都五一五五番
京都市下京区七条御所ノ内東町三九
印刷所　中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. IXL NO. 1 Jan. 1956

CONTENTS

Articles :

The Development of Theogony in Kiki(記紀)…… *M. Ueda* (1)
——family genealogies and positions of gods——

The Significance of Jokyu-no-Ran
(Civil War of 1221)……*M. Uwayokote* (24)

Historical Geography of the Utilization of
Water Power……*Y. Sueo* (45)

Princess Chin-ch'êng's (金城公主) Entance
into Tibet (1) ……*H. Sato* (68)

Book Review

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan